

平成 29 年度委員会活動成果報告会

2018-6-8
環境計測委員会

平成29年度活動目標

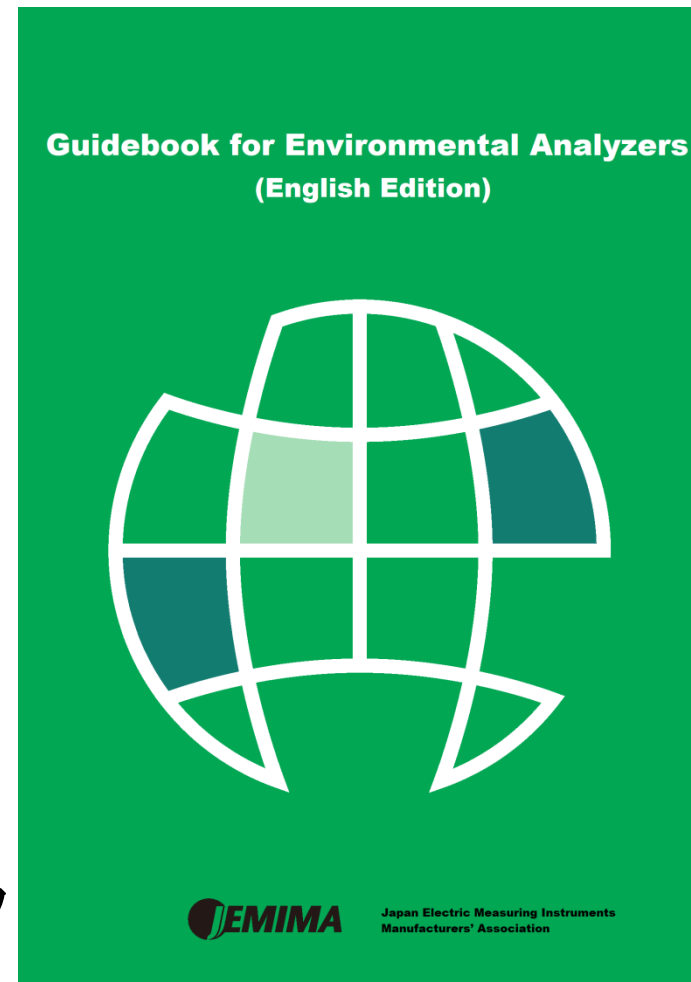
- 1.英語版環境計測器ガイドブックの完成
- 2.環境関連JISの見直しと新JISの原案作成
JIS B7993「試料非吸引採取方式分析計による
排ガス成分の自動計測システム」の原案作成
- 3.環境計測委員会の啓蒙活動
計測展2017TOKYOへの参加。

H29年度の主な成果(1)

1. 環境計測器ガイドブック

英語版の完成(2年計画の2年目)

- ・国内初の英語版計測器ガイドブック
- ・会員企業の海外進出支援
- ・英語翻訳者、英語ネイティブ監修者による協力
- ・大気汚染、水質汚濁、騒音・振動計測器の3部作
- ・タイへ訪問し英語版計測器ガイドブック拡販の予備調査を実施



H29年度の主な成果(1)

1. 環境計測器ガイドブック英語版の完成(2年計画の2年目)

1-1 英語版計測器ガイドブック拡販予備調査報告

期間:2018年3月26日(月)~30日(金) / 訪問先:バンコク(タイ)

①チュラロンコン大学 石油および石油化学大学院

面談者:副学部長、Siriporn Jongpatiwut教授

- ・JEMIMA環境計測委員会の紹介
- ・英語版ガイドブックの紹介
- ・タイでのガイドブックの有用性:

大手の石油会社にセミナーなどを通じて本のことを紹介できる。

日本語の資料はタイでは通じない、英語は便利である。

ガイドブックのことをイメージできる資料があればよい。(英語)

学生には種々の計測器について学べる点が良い。

H29年度の主な成果(1)

1. 環境計測器ガイドブック英語版の完成(2年計画の2年目)

1-1 英語版計測器ガイドブック拡販予備調査報告

①チュラロンコン大学 石油および石油化学大学院(つづき)

- ・タイでは食品分野の安定した経済発展が望まれている。エビ養殖、輸入食品の安全性についての関心が高い。この分野にPRしてはどうか。
- ・本年9月に本学部は創立30周年を迎える。セミナー開催や寄付募集をこれから行う。
(なお寄付についての要求はなかった。)

※今回のカウンターパートである同学部Suwabun教授とは面談出来なかった。その代わりに副学部長を紹介していただいたので大学での調査を行うことが出来た。

H29年度の主な成果(1)

1. 環境計測器ガイドブック英語版の完成(2年計画の2年目)

1-1 英語版計測器ガイドブック拡販予備調査報告

②泰日経済技術振興協会(TPA)訪問

面談者:事務総長 Pornchai Yongwattansoontorn

Project Coordinator 笹澤志保氏

一社)日・タイ経済協力協会 JTECS タイ代表 山本創造氏

・TPA会館内で3者と面談

TPAでは技術研修、日本語学校、技術書翻訳、計測実習、計測機器校正事業(長さ、重さなど)に関する人材育成事業を行っている。

各種セミナーの開催を行っており、会場使用、集客協力を受けることが出来る。

ガイドブックは大手企業、大学で利用されるであろう。特に学生は一つの装置だけでなく他の装置を学ぶことが出来る点が良い。

H29年度の主な成果(1)

1. 環境計測器ガイドブック英語版の完成(2年計画の2年目)

1-1 英語版計測器ガイドブック拡販予備調査報告

②泰日経済技術振興協会(TPA)訪問

・TPA会館内で3者と面談(つづき)

環境問題はチュラロンコン大学で行われているので学生の利用が考えられる。「騒音、振動に関心がある。」P氏

計測機器は大手の企業が扱っているので彼らにガイドブックを紹介したらどうか。

TPAでは環境よりRoHS関連の最新情報に興味がある。しかし、TPAにおいて環境問題を扱う場合は協力をお願いする。

タイではまだ環境問題に関する認識が薄い。

食品ではエビの輸出に関連した検査が重要である。

TPAはJEMIMAと覚書を締結しているのでこれからも協力していきたい。

チュラロンコン大学

石油および石油化学大学院

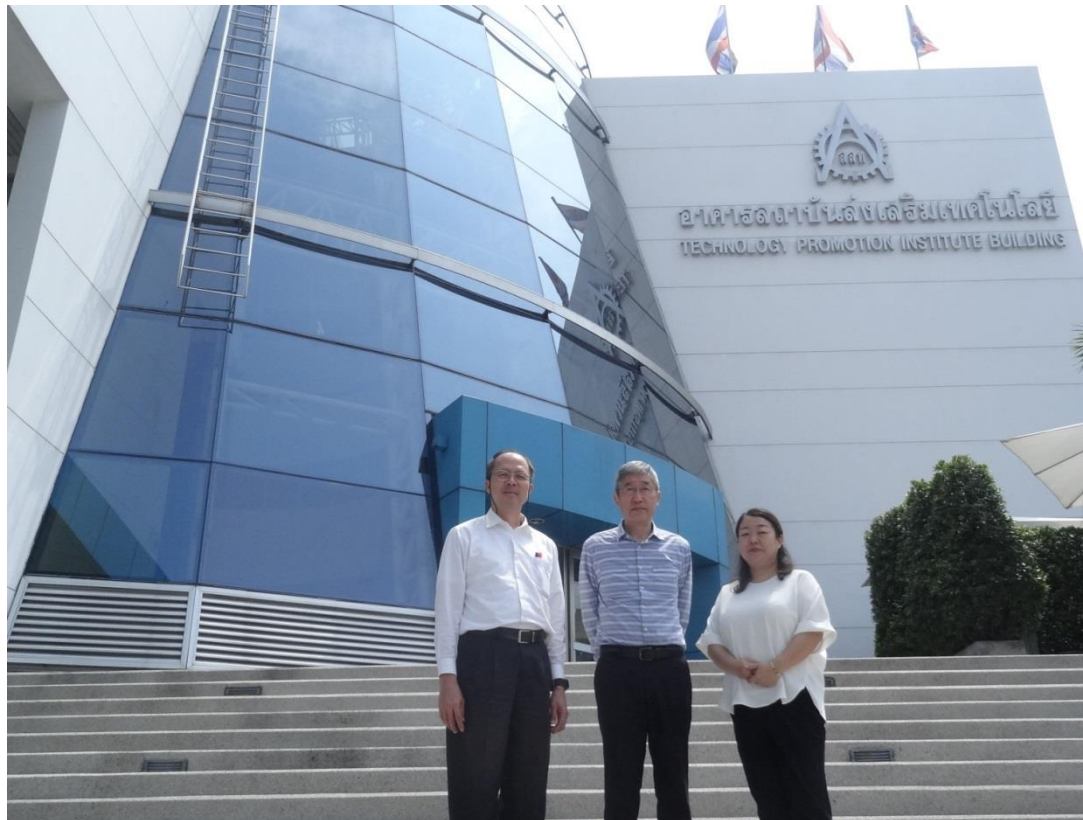


副学部長室にて

左からAssociate Dean・Siriporn、田口、大学研究員

泰日經濟技術振興協會TPA

環境計測委員會



TPAの玄関前で

左から:TPA PORNCHAI事務総長、田口、TPA笹嶋様

H29年度の主な成果(2)

3. 環境計測委員会の啓蒙活動 計測展2017TOKYOへの参加

- パネル「身のまわりの環境計測」
および環境計測器紹介_スライドの
展示・説明
- 環境計測器ガイドブック第7版の
販売(26冊販売)
- 環境計測委員会活動紹介
(JEMIMAブースにて)



H29年度の課題とその対策

- 英語版作成作業費の捻出：環境計測委員会予算だけでは賄えない状況であった。

対策→委員会メンバーによる編集作業の分担
→製本等を行わず、WEB版での作成・販売を行なう。

- 委員会活動の周知が不十分

対策→計測展での委員会紹介活動を積極的に実施。
環境計測器紹介スライドおよび「身のまわりの環境計測」の
パネルを活用した来場者への啓蒙活動。

※パネルが好評を得たので次年度以降、来場者向け
フライヤー、クリアファイル等の配付物にすることも検討

今後の計画（H30年度事業）

1. 環境計測器ガイドブック日本語版及び英語版の
拡販活動
2. 環境関連JISの見直しと新JISの原案作成
3. 環境計測委員会の啓蒙活動
計測展2018OSAKAへの参加。